

◆テーマ「歴史文化遺産を生かした魅力あるまちづくり」 ～世界文化遺産を契機とした新たな取り組みへ～

◇第 4 回 羽曳野市まちづくり戦略会議◇

開催日時 平成 23 年 8 月 12 日(金) 15:00～17:00

開催場所 LIC はびきの 2 階中会議室 A

【参加有識者】

- 白石太一郎〔近つ飛鳥博物館館長〕
- 河内厚郎〔はびきの市民大学学長〕
- 畑田耕一〔大阪府登録文化財所有者の会会長、畑田家当主〕
- 古澤壽一〔古市地区長〕
- 真銅善夫〔駒ヶ谷地区長〕



◆ご提言の内容◆

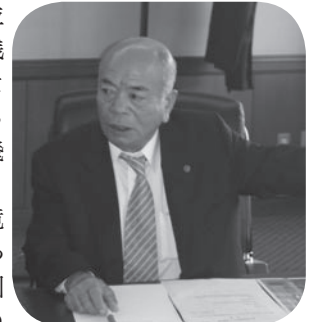
市長 第 4 回まちづくり戦略会議ということで、羽曳野市のこれからの魅力あるまちづくりのため、今回は「歴史文化遺産を生かした魅力あるまちづくり」のテーマのもと、昔の街並みが残る地元を代表し、古澤区長、真銅区長を、また、世界文化遺産登録有識者会議の委員を代表し、白石委員を、大阪府登録文

化財所有者の会会長であり、羽曳野市の登録文化財である畑田家の当主、畑田委員を、教育の観点からご意見をいただくため、はびきの市民大学学長である河内委員にご出席いただきました。本日、皆様方には様々な意見をご提案していただきたいと考えております。

真銅氏 駒ヶ谷地区では、古くから竹内街道が通っており、平成 16 年には平成の竹内街道というべき南阪奈道路が開通しました。また、杜本神社、奉獻塔、飛鳥戸神社、観音塚古墳などを預かっており、壺井八幡宮、通法寺には、源氏三代が祀られております。加えて、ドラウエア種のぶどうを栽培しています。現在、上ノ太子駅には、源氏三代の墓、壺井八幡宮などの告知板がありますが、お車で来られた方や若い方に対しても、来やすいように、高速道路出口に案内地図をつくっていただきたい。また、道路については、町道太子中央線を大阪芸術大学方面までつなぎ、南阪奈道路の羽曳野東インターから南に向かって、通法寺の方への整備をお願いしたいと思います。



産の中で大変重要です。古市の街並みは昔のままですが、銀屋など、残念ながら時代の流れの中で無くなったものもあります。石川を越えると飛鳥川に連なっており、ここが飛鳥の発祥ともいえるところで、多くの天皇陵があります。こうした環境を生かすため、世界遺産登録にあわせて、羽曳野市の中心地に防災公園として整備されている峰塚公園の高いところから古墳群を見渡すような施設があってもいいと思います。近くで前方後円墳の外観がよく見えるのは、日本武尊陵、清寧天皇陵、仁賢天皇陵、仲哀天皇陵、そして津堂城山古墳などです。また応神陵が世界遺産登録を目指すということなので、羽曳野、藤井寺両市により、歴史資料館を作り観光客のスポットにすればどうでしょうか。御陵の偉大さを見るには墳丘の前に立って見るのがいいと思います。



畑田氏 2 つ提案させていただきたいと思います。1 つ目は、文化財の活用保存を通じて、世界に冠たる文化都市はびきのをつくって欲しいということです。古墳を中心とする歴史的景観を整備・保存し、文化的景観を未来へつないでいくこと、そして、その重要性を市民が認識することが大切だと思います。登録文化財など、伝統的建造物による街並みを保存して活用することで、文化財保存と継承の大切さを市民に認識して貫くことも大事だと思います。そのために、文化財保存にかかわる行政・文化財関係者・市民などを含むネットワークをつくるのもひとつの方法です。2 つ目は、文化は教育と密接な関係にあるということについてです。たとえば、学校教育を学校とは少し違う面から支援する委員会をつくり、羽曳野市の教育・文化について議論を重ね、その成果のうち可能なものは実行に移すことです。古民家に小学生を招いて体験学習をしたり、教育文化カフェ（教育と文化について、専門家と一般の人々が気軽に語り合う集まり）をコミュニティセンターや文化財の建物で開催出来ればと思います。こういうことは、最初のきっかけは行政がつくる必要があります。

白石氏 仁徳・応神天皇陵古墳は世界的に見ても有数の、巨大な古代王墳であり、百舌鳥・古市古墳群が世界遺産登録されるのは当然であり、地元はもちろん大阪全体が、自信と元気を取りもどすためにも重要です。また、古市古墳群のみならず、飛鳥、駒ヶ谷地区は多くの渡来人が定住したところです。日本の古代文化は朝鮮半島から伝わり、古代における文明開化は、河内から始まったともいえます。特異な終末期古墳も多く古市古墳群とともに保存顕彰が必要です。古市古墳群は、東西に竹内街道が、南北には東高野街道が通っており、この沿線にさまざまな文化遺産が残っています。半島から高い文化を伝えた王仁を祖先とする西文氏は、西琳寺を氏寺とし、また渡来系の船氏は野中寺を氏寺としていました。また、中世・近世の文化遺産も多く、これを生かしたまちづくりを考えていただきたいと思っています。時々、団体客を古市古墳群に案内しますが、バスを停めるところがなく、長距離を歩いていただいています。今後、駐車場、資料館等、観光客を受け入れる方法を考えないといけないでしょう。

河内氏 はびきの市民大学として、万葉集に登場する羽曳野周辺の歌をリストアップしていこうと考えています。私は、追手門大学の客員教授として、関西経済同友会と共同で「古都おおさかプロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクトでは、

古都としての大阪の側面を忘れないように大阪の歴史・文化を再発見し、観光活性化などにつなげようという取り組みを行っており、羽曳野市にも入っていただきたいと思っています。また、日本で最初のをピックアップしており、例えば、四天王寺を建てた日本最古の会社である金剛組や、日本最古の国道である難波大道（のちの竹内街道ルート）などを市民大学で取り上げようと考えています。

4年前の本会議に出席した際、羽曳野で一番物語になるのは「橘三千代」だといいました。この人物は、尺度の出身、天武天皇の官女で、藤原不比等の妻、光明皇后の母にあたります。この「橘三千代」の物語性のあるところを研究し、日本人に羽曳野発の「物語」を知ってもらおう突破口にしたいと考えています。大阪芸術大学なども入っていただき、ドラマへの登場の可能性を仕掛けたいと思っています。堺市が合併して市域が変わったので、堺まつりも変えようとしています。これまで鉄砲、布団太鼓が中心でしたが、世界遺産の話ができたので、古墳時代も入れたパレードも考えているようです。それに羽曳野は無関心でいいのかということもあります。

事務局（司会） 世界遺産登録に向けた動きについて、白石委員より説明をお願いいたします。

白石氏 現在、世界遺産は、自然遺産、文化遺産含めて900件あまりあります。日本では平泉、小笠原を加えて、自然遺産4件、文化遺産12件となりました。政府は世界文化遺産への推薦のため、国内で暫定リストをつくって、これに記載することにしています。百舌鳥・古市古墳群は、すでにそのリストに挙がっています。平泉は浄土教思想との関係などを理解してもらうのに大変でしたが、その点「百舌鳥・古市」は分かりやすいと思います。12件のうち比較的早い機会に世界遺産登録される可能性は少ないと思います。問題としては、戦後著しく周辺が市街地化していったことが挙げられます。ただ、墳丘部は完全に残っていますので、登録に問題ないということで進めています。しかし、世界遺産登録については、登録資産だけでなく、周辺地域もバッファゾーン（緩衝地帯）としてその景観保全も考えることになっています。この周辺地域をどのように保全するかが大きな課題ですが、考え方の問題でもあります。これは20世紀に著しく市街化したという歴史的事実に立って、それでも重要な価値があると考えています。ただ、いくつかの視点場から見て不自然な景観とならないよう、バッファゾーンの景観保全を考えないといけないということです。ここから見ると分かりやすいといった視点場からの景観を保全しようということで、大阪府と3市で協議をしておられます。

畑田氏 周辺地域の話ですが、古墳ができた当時はどうだったのですか？

古澤氏 かつてから教わってきたのは、仁徳天皇陵古墳の濠水は、狭山から仁徳に水を引いて、民百姓の灌漑用水に利用出来るように、御陵をつくったといわれています。つまり濠の水は民の用水として用いたということなんでしょうか。

白石氏 古墳のつくられた場所は、水田など耕作に適した場所ではなく、農地には不向きな丘陵部につくったようです。また、狭山池は堤の改修で樋管が出てきて、この池は7世紀初（飛鳥時代）につくられたものと判明しました。したがって、仁徳天皇陵古墳よりは新しいものです。ただ水をたえた濠をもつ帝王陵は世界中どこにもない。水田稲作農耕文化を基礎にした日本独特のもので、支配者であった大王が死後も水の安定確保を保障してくれるようにという願いを込めてつくったと思われる。

畑田氏 御陵は市民生活と密接に関わりつつ残ってきたように思います。周辺環境として駐車場なども大事ですが、周辺の街並みを整え、昔の状況を保存することが大切だと思います。修復する技術者も減っていく中で、伝統的建造物保存の努力が必要です。また、羽曳野市とその周辺の大学には多くの留学生が来ています。彼らと羽曳野の歴史を語り合う場を設けて、羽曳野の文化遺産を世界に伝えていく機会をつくってはいかがでしょうか。

白石氏 重要な指摘だと思います。古市古墳群では応神陵古墳のすぐ後ろに応神天皇を祭神とする誉田八幡宮があって、平安時代から祀られています。当然密接な関係があると思われ、古市古墳群を考える上にも重要です。こうした古市古墳群内やその周辺の歴史遺産については、世界遺産ではなくても、それと関連させて保存し活用する手だてを考えて欲しいと思います。

事務局（司会） 市民と行政は、一緒に取り組みをしていく必要があろうかと思いますが、歴史文化遺産を生かしたまちづくりについて、ご提案がありましたらお願いします。

畑田氏 古民家を残していく手だてが必要だと思います。例えば、市の指定文化財に指定するなどの支援が欲しいです。また、教育と文化は関係が深いので、幼少のころから市の歴史文化についての教育が要ります。それが羽曳野の歴史文化を大事に育てていくことにつながるのです。先生だけでなく市民も協力して、古民家での体験学習や所有者の学校への出前授業などを市が推奨して欲しいものです。

古澤氏 古市では両替商である銀屋が住宅になってしまいましたが、存続するための市の手だてが欲しかった。それと同時に世界遺産登録に向けて、陵墓周辺の取り扱いでは、後手にまわっていますが、今後において更に周辺の規制をしてはどうかと思います。

白石氏 文化遺産を生かしたまちづくりを考えようという姿勢を、市が示されることが大切です。古市古墳群のボランティアガイドをしてられるグループの方々が、古墳群の歴史的意義を理解してもらうため講演会や歴史遺産を生かしたまちづくりを考える討論会を開いておられます。文化財を守ってこられた地元の方と、市民と行政が一体となりながら考えていかなければいけないことですが、幸いそういう活動が熱心に展開されているので、是非それを育てる方向で進んでいただけたらと思います。

河内氏 歴史文化が無意識になってしまうほど土地に溶け込んでしまった地域ですが、無意識を意識に変えたい。地域文化とつながりたいという新住民の方などを巻き込んで、少し背伸びをしていけば良いと思います。また、来年は古事記編さん1300年ということで、「世界遺産の中の市民大学」を目指して、どこもやっていないような古典文学啓蒙をぜひやっていきたいと思っています。